

# 農家の生活改善(12)

主婦がいつまでも若く美しくあるために

## 近代性をもった衣服 その2

### 婦人のページ

この頁は農家の居食住について考えていくページです。今月の担当は寺迫 信子さんです。

### 1、きものをきる目的

洋装でも、和装でも、その一番の目的は着るといふことです。これには身体を保護する衛生的な役目を果たすこと、情操的な文化生活を営んでいくための趣味や嗜好を十分に取り入れることの2つの要素と、生活の能率を増進することが着ることの本質になっています。

### 2、考え方が変わった

現代のきものについての考え方は、今までのきものをためることや

煩わしい法則などから解放され、現実の社会生活の様式にふさわしいきものや、その時々々の環境と気分に応じて着るたのしいきものになっています。

それがために、高価で特定の用途のきものはあまり用いられなく、それにかわって、合理的で無駄の無いもので、能率本位で取り扱われ、そのうえ、現実の生活から生み出される感覚と様式にふさわしい個性美的な社会生活着のきものが、近代的といえます。

### 3、最近のきものの傾向

生活様式が簡素になるとともに、形式より動きに重点がおかれ、外出着だけのものより外出着と家庭着にも併用できる応用範囲の広いものを選び、布地はウールやもめんや化学繊維が多く用いられ、和服でも、反ものより広巾のものが歓迎され、裁断や縫い方もミシン縫いと変わってきました。農村にはまだあまり入っていませんが、都市では最近、ウールの着物がブームを起しているのも、従来の衿の約束や季節観念、色彩に依る年齢感などに支配されるこ

とがなく、仕立ての簡単なことや、手入れ、洗たくがらくで着やすい等の合理性が、機能的な現代人のきものとして、ぴったりしているからだと思います。

さらに機能美を中心に、動的美に重点がおかれるようになっていきます。したがって、和服も狭い日本間に合うものよりも、明るい街頭やビル、ネオン等にふさわしい感覚本位のきものが求められ、座った時より立って歩く時の美しさに重点がおかれ、静的美から動的美へと自然に移行してきたきものは、反物自体の美しさよりその時々々の場との調和を中心に選ばれるようになり、模様そのものより全体の色彩、配色が重要なポイントとなっています。

なお、この場合にも自分の個性を活かすことは、絶対的な条件ですから、周囲と自分の調和を同時に生かすものが要求されています。

### 4 家庭着と外出着の近代化

ところで、県内農家の主婦の方の夏の衣服は殆どどの人が、ブラウスとスカートの形式の家庭着で、外出には同じ形式かあるいは、ツーピースが主になっています。この形式ですと作業衣から日常衣に着かえることは簡単ですが、冬はブラウスとスカートの着かえると、下着まで着かえなければなりませんし、畳の部屋や寒い住いの様式では、スカートにはきかえることはできません。そこで和服が冬の家庭着として準備されている数が多くなっていますが、実際には毎日の多忙な農作業に押され、準備されている和服に着かえる面倒を省き、一日中、農作業衣を着て過す場合が多いようです。

この家庭内のきものが農作業衣を脱ぎ去り、家庭生活にふさわしいきものに着かえるべきだと、3月号でも述べましたが、スポーツマンがユニホームのまま家庭着として、また、工場の作業服のまま家庭着に用いる等ということはありません。家庭に帰れ

## 岡山畜産便り 1965.06

ば家庭着に着かえています。

それと同様に、これからの近代人としての農村婦人は、家庭に帰れば、さつぱりとした家庭着に着かえ、お勤め帰りの御主人や、子供さん達を迎えるだけの身だしなみが必要です。そこで、冬の家庭着は農作業衣から簡単に着かえられ、住いとの関係も考えた和洋折衷の形式のものを取り入れる必要があると思います。

最近、都市の団地では、高層建築のため階段の上がり降りや洗たくもの干しや、買物等の活動着は、和服やスカートでは困ることが多いので、スラックスが多く用いられています。

農家でも、もっと能率的な、環境にマッチした衣服の形態を、新しい考え方により、単に都会のものを表面的に真似るのでなく、習慣にとらわれずに開発していかなければなりません。